

ふるさと見て歩き

第4回

鷺子山上神社(鷺子)

上りのこさんじす
鷺子山上神社
と紙漉きの里

美和地域には、茨城・栃木両県にまたがる鷺子山上神社という製紙の神として有名な古社があり、信仰を集めています。

◆製紙のかみさま

鷺子山上神社は旧美和村鷺子地区と栃木県馬頭町と那地区をまたぐ

地にあり、参道に両県の社務所が向かい合って建つ珍しい神社です。古くから紙生産の神として信仰されてきました。もともと阿波国(徳島県)の鷹山山上神社に製紙の神として祀られていた天日鷲命(あまのひわしりのみこと)を分霊して鷺子山上に祀ったものといわれています。



▲この鳥居の手前向かって右側に茨城県の、左側に栃木県の社務所があります。

昔から鷺子地区をはじめとする旧美和村、旧山方町、旧緒川村や栃木県の馬頭町、鳥山町などでは和紙の生産が盛んでした。製紙に携わった人びとは、鷺子山上神社を生業の拠り所とし、毎年正月には和紙一帖を納めたといいます。現在でも神社境内北側に紙漉沢と呼ばれる場所があり、そこが神様に供える紙を漉いた場所ともいわれています。

茨城県側では、七月十六日と十七日に祇園祭が行われます。特に四年に一度は神輿渡御があり、また鷺子彫りの山車や屋台が出て、祭りに彩りを添えます。鷺子には現在六つの組があり、交代で当番を務めます。来年、平成十八年には神輿渡御、山車巡行が予定されています。

◆鷺子の紙漉き資料を後世に

かつては西ノ内(旧山方町)を中心として栃木県にまたがる県北地域は和紙の一大産地でした。薄井友衛門という水戸藩でも屈指の紙問屋があった鷺子は、昭和三十年代頃まで、およそ七割もの家で副業として紙漉きを行っていたということです。この地で漉かれた紙は地元では「とりのこ紙」と呼ばれ、市場に流通するときは「西ノ内紙」の名前で呼ばれていました。しかし一般には「とりのこ紙」は温かい地域に自生する雁皮という植物を原料として漉きだされた高級和紙のことで、地名に由来する「とりのこ紙」とは別のものと考えられています。

かつては特産の葉たばこを春から秋に

かけて栽培した後、冬から春先まで紙漉きが行なわれていました。水の冷たい季節の作業は厳しく、指先を暖めながら行なったということです。

現在では、紙漉きを行なう家もなくなり、それぞれの家で持ち伝えていた技術も道具も、その多くが失われつつあります。

それを惜しんで、紙漉きの技術を後世に伝えようと、長年紙漉きをしてきた地元の方々が道具を持ち寄って、「美和高齢者コミュニティセンター」内に紙漉きの体験ができる施設を設けました。毎年夏休みには、子供たちが参加して紙漉き体験も行なわれています。和紙を製造する作業はもちろん、その道具の製作や補修のできる方たちも高齢となりつつある現在、史料の散逸を防ぐ意味でも意義深い活動と言えます。(歴史民俗資料館)

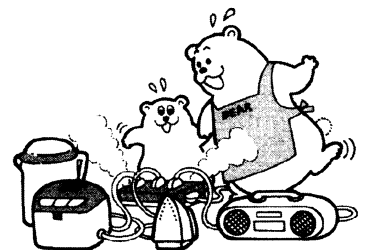


▲美和高齢者コミュニティセンター内に作られた紙漉き実習室

8月は経済産業省主唱の電気使用安全月間です



- ①漏電遮断機を取り付けて電気事故を防ぎましょう。
- ②アース線はしっかり取り付けましょう
- ③タコ足配線はやめましょう。
- ④プラグはときどき点検しましょう。
- ⑤取扱説明書にそった使い方をしましょう。



コードやコンセントには使用できる電気の量に制限があります

KDH 財団法人 関東電気保安協会
http://www.kdh.or.jp